

# 農林水産商工常任委員会資料

(令和3年3月2日)

## 項 目

- 1 令和2年度第3・四半期各事業実績について  
..... 2ページ
- 2 企業局所管の発電電力の売電先決定について  
..... 3ページ
- 3 鳥取市水道局及び鳥取県企業局情報交換会の開催結果について  
..... 4ページ
- 4 米子市水道局及び鳥取県企業局情報交換会（第2回）の開催結果について  
..... 5ページ

企 業 局

# 令和2年度第3・四半期各事業実績について

令和3年3月2日  
企業局経営企画課

## 1 電気事業

### (1) 販売電力量

- 第3四半期の全体での実績は、目標に対して61.0%、対前年比で64.8%となった。
- 水力発電は、10、11月の少雨、12月は積雪量が多かったものの発電量には直結しなかったことから、目標に対して58.3%、対前年比でも62.5%と下回った。
- 風力発電は、風況が悪く、ブレード補修に伴う運転停止などもあり、目標に対して63.7%、対前年比でも66.3%と下回った。
- 太陽光発電は、概ね日照に恵まれたことから、目標に対して114.3%、対前年比でも104.4%と上回った。

(単位:MWh)

区分		令和2年度			前年度 実績(C)	対前年比 B/C
		目標(A)	実績(B)	B/A		
水力	第3四半期	29,068	16,940	58.3%	27,094	62.5%
	累計	104,621	91,893	87.8%	75,556	121.6%
風力	第3四半期	1,117	712	63.7%	1,073	66.3%
	累計	3,429	3,209	93.6%	3,428	93.6%
太陽光	第3四半期	1,416	1,619	114.3%	1,550	104.4%
	累計	6,291	7,261	115.4%	7,109	102.1%
合計	第3四半期	31,601	19,271	61.0%	29,717	64.8%
	累計	114,341	102,363	89.5%	86,093	118.9%

### (2) 販売電力収入

- 第3四半期の全体での実績は、太陽光発電が好調だったものの、水力と風力が目標発電量を下回ったことから、目標に対して88.5%、対前年比でも93.0%と下回った。
- 発電区分別では、目標に対し水力発電が86.3%、風力発電が63.7%、太陽光発電が114.2%となった。

(税込、単位:千円)

区分		令和2年度			前年度 実績(C)	対前年比 B/C
		目標(A)	実績(B)	B/A		
水力	第3四半期	389,572	336,339	86.3%	362,754	92.7%
	累計	1,252,948	1,191,725	95.1%	1,074,431	110.9%
風力	第3四半期	23,428	14,928	63.7%	22,521	66.3%
	累計	71,945	67,321	93.6%	71,025	94.8%
太陽光	第3四半期	55,695	63,626	114.2%	60,919	104.4%
	累計	247,849	285,891	115.3%	276,673	103.3%
合計	第3四半期	468,695	414,894	88.5%	446,194	93.0%
	累計	1,572,742	1,544,937	98.2%	1,422,129	108.6%

※水力発電(FITを除く)は、定従比率(基本料金と従量料金の割合)が8:2であるため、発電量と収入は比例しない。

## 2 工業用水道事業

- 日野川工業用水は、対前年比で契約数84社と1社増となり、契約水量は28,400m<sup>3</sup>/日と200m<sup>3</sup>/日増加した。
- 鳥取地区工業用水は、対前年比で契約数13社と増減はなかったものの、1社契約水量の減により、契約水量は5,950m<sup>3</sup>/日と50m<sup>3</sup>/日減少した。

区分		令和2年度			前年度			対前年比 A/B
		契約数 (社)	契約水量 (m <sup>3</sup> /日)	収入額(A) (税込、千円)	契約数 (社)	契約水量 (m <sup>3</sup> /日)	収入額(B) (税込、千円)	
日野	第3四半期	84	28,400	68,410	83	28,200	68,281	100.2%
	累計			205,306			207,552	98.9%
鳥取	第3四半期	13	5,950	29,226	13	6,000	29,260	99.9%
	累計			87,329			90,592	96.4%
合計	第3四半期	97	34,350	97,636	96	34,200	97,541	100.1%
	累計			292,635			298,144	98.2%

## 3 埋立事業

### (1) 新規売却及び長期貸付等 竹内団地で2社に売却した。

(単位:千円)

地区	区分	売却先	契約締結日	面積(m <sup>2</sup> )	売却代金
竹内	売却(一括)	エンチーム株式会社	R2.10.14	3,317.39m <sup>2</sup>	38,216
竹内	売却(一括)	株式会社澤井珈琲	R2.12.31	3,255.66m <sup>2</sup>	39,068

### (2) 一括即納売却、割賦販売、長期貸付の収入状況

(単位:千円)

区分	一括即納売却	割賦販売	長期貸付 <sup>※</sup>	合計
第3四半期	38,216 (1社)	980 (1社)	1,164 (2社)	40,360 (4社)
累計	98,083 (2社)	33,899 (2社)	84,308 (13社)	216,290 (17社)

※一括即納売却のうち、澤井珈琲分は1月入金につき未計上。

※長期貸付(累計)の内訳は、毎月払3社、年払10社。

# 企業局所管の発電電力の売電先決定について

令和3年3月2日  
企業局経営企画課

企業局が所管する6か所の水力発電所（非FIT）の発電電力について、令和3年度からの売電先を下記のとおり決定しましたので報告します。

本売電先の選定については、令和3年1月12日に一般競争入札を実施しましたが、新型コロナウイルスの影響による電力需要の低下等もあり予定価格に達せず、不落札の結果となりました。

なお、現行の電力受給契約が終了する本年3月末までに新たな売電先事業者を決定する必要があり、再入札を行う時間的な余裕がないことから、入札手続きを終了し、地方自治法施行令第167条の2第1項第5号の規定に基づく随意契約によることとし、改めて契約手続きをとり、当該入札において最高額を提示した事業者を売電先とすることに決定したものです。

## 1 発電所別の売電先

対象発電所（所在地）	売電先事業者 契約日	売電期間	備 考
佐治発電所(鳥取市) 加地発電所(若桜町)	株式会社 とっとり市民電力 (鳥取市) 令和3年2月16日	令和3年4月1日 ～令和6年3月31日	
新幡郷発電所(伯耆町)	中国電力株式会社 (広島市) 令和3年2月22日	令和3年4月1日 ～令和6年3月31日	
日野川第一発電所(日野町)		令和3年4月1日 ～令和4年1月31日	※日野川第一は令和4年1 月末、小鹿第一は令和3 年10月末、同第二は令和 3年8月末で売電終了
小鹿第一発電所(三朝町) 小鹿第二発電所(三朝町)			

## 2 今回の一般競争入札の総括

### (1) 新型コロナウイルスの影響と電力市場価格の下落(不落札の要因)

- ・新型コロナウイルスの影響により電力需要が著しく低下し、市場価格の下落傾向が長期化しており、この影響が更に継続する見込みから、冬季の一時的な価格上昇があったものの、期待した価格には及ばなかった。

### (2) 地産地消への貢献

- ・一般競争入札の実施により、中国電力との電力受給契約(随意契約)を解消し、入札に参加した県内の地域新電力事業者である株式会社とっとり市民電力を売電先と決定したことで、電力の地産地消を一層推進することができた。

## 3 今後の予定

- 新事業者と送配電事業者との接続切替 令和3年2月下旬～3月下旬
- 新事業者への売電開始 令和3年4月1日

### 【参考：根拠規程】

#### 地方自治法施行令

(随意契約)

第167条の2 地方自治法第234条第2項により随意契約によることができる場合は、次に掲げる場合とする。

1～4 省略

**5 緊急の必要により競争入札に付することができないとき。**

6～7 省略

8 競争入札に付し入札者がいないとき、又は再度の入札に付し落札者がいないとき。

9 略

2 前項第8号の規定により随意契約による場合は、(中略) 最初競争入札に付するときに定めた予定価格その他の条件を変更することができない。

#### 県会計規則運用<抜粋>

【5号随契】 令167の2第1項第5号

緊急の必要により競争入札に付することができないとき。(5号随契に該当するもの)

ア～イ略

**ウ 競争入札に付することにより、契約を締結する時期を失うおそれがあるとき。**

## 鳥取市水道局及び鳥取県企業局情報交換会の開催結果について

令和3年3月2日

企業局経営企画課

鳥取市水道局及び県企業局において、各々の事業内容、経営状況、課題及び今後の取組等に関する情報の共有を図り、今後の運営・経営改善につなげていくため、水道事業と鳥取地区工業用水道事業の運営や経営等に関する情報交換会を以下のとおり開催しました。

- 1 日 時 令和3年1月27日（水）午後1時30分から3時30分まで
- 2 場 所 鳥取市水道局
- 3 出席者 鳥取市水道局副局長、次長兼経営企画課長ほか1名  
県企業局長、経営企画課長、工務課長、東部事務所長ほか2名

### 4 概 要

#### (1) 開催趣旨

県と鳥取市で、鳥取地区工業用水道と市水道事業・工業用水道の運営や経営等に関する情報交換会を開催することにより、各々の事業内容、経営状況、課題及び今後の取組等に関する情報の共有を図り、今後の運営・経営改善につなげていく。

#### (2) 鳥取地区工業用水道及び鳥取市水道の事業概要について

##### 《県企業局》

- ・最大給水量(14,000 m<sup>3</sup>/日)、現行給水量(5,850 m<sup>3</sup>/日)、ユーザー数(13)、給水エリア及び料金体系等の概要

##### 《鳥取市水道局》

- ・計画一日最大給水量(77,000 m<sup>3</sup>/日)、令和元年度平均給水量(60,675 m<sup>3</sup>/日)、給水区域(3区域)、上水道と簡易水道の統合、料金改定の経緯、工業用水道（青谷地区）の状況等の概要
- ・鳥取市水道事業の課題を整理し、将来の目標や施策を示した「鳥取市水道事業長期経営構想」を平成27年4月に改訂。（平成27年度から令和7年度まで）
- ・統合前の簡易水道給水区域の整備計画（「地域水道整備計画」）を平成29年度に策定。（平成30年度から令和19年度まで）

#### (3) 各事業の決算状況と経営上の課題について

##### 《県企業局》

- ・令和元年度決算は、収益的収支全体△186百万円、うち鳥取地区△123百万円の単年度欠損金を計上、厳しい経営状況が継続している。
- ・大口ユーザーの減量による減収や、経済状況により当初見込んだ給水需要が確保できなかったことが経営を厳しくした要因であり、工業用水道の安価で安定した水質等をPRし、利用拡大に取り組む必要がある。

##### 《鳥取市水道局》

- ・令和元年度決算は、収益的収支327百万円の単年度純利益を計上。
- ・平成30年度に料金を改定し、以後、単年度黒字を実現している。（→料金改定では、平均18.4%アップし収入確保）
- ・長期経営構想に基づき取組を進める中で、5年ごとに料金を検討する予定としている。
- ・老朽設備・管路の更新について計画的に行う必要がある。
- ・平成29年度に簡易水道(旧町村から承継し市長部局で所管)を上水道に統合し、引き続き、計画的に簡易水道区域の施設の統廃合を実施している。
- ・工業用水道については、施設の老朽化とともに、今後ユーザー増が見込めないことから、10年後に廃止する方針。

#### (4) 今後の予定

双方の経営課題や取組等を共有し、工業用水道事業の経営改善策につながるよう情報交換会を今後も開催するものとする。

区分	時期	内 容（予定）
第2回	今後調整	・今後の収支見直し ・運営上の課題解決や今後の経営改善に向けた取組方針（施設の維持や料金のあり方等）など

## 米子市水道局及び鳥取県企業局情報交換会（第2回）の開催結果について

令和3年3月2日  
企業局経営企画課

米子市水道局及び県企業局において、各々の事業内容、経営状況、課題及び今後の取組等に関する情報の共有を図り、今後の運営・経営改善につなげていくため、水道事業と日野川工業用水道事業の運営や経営等に関する情報交換会の第2回会合を以下のとおり開催しました。

- 1 日 時 令和3年2月5日（金）午後2時30分から3時30分まで
- 2 場 所 米子市水道局
- 3 出席者 米子市水道事業管理者(水道局長)、副局長兼計画課長、次長兼総務課長ほか4名  
県企業局長、経営企画課長、工務課長、西部事務所長ほか3名

### 4 概 要

#### (1) 開催趣旨

県と米子市で、日野川工業用水道と水道事業の運営や経営等に関する情報交換会を開催することにより、各々の事業内容、経営状況、課題及び今後の取組等に関する情報の共有を図り、今後の運営・経営改善につなげていく。

#### (2) 鳥取県日野川工業用水道及び米子市水道の今後の収支見通しについて

##### 《県企業局》

- ・令和2年度決算は、契約水量減や利用水量減に伴う超過料金の減少により、営業収益は前年度比7百万円減の355百万円となり、当期純損益では170百万円の赤字を見込む。
- ・令和3年度以降は、バイオマス発電への供給開始に伴う増収や企業償還金の減少により、収益的収支、資本的収支の改善を見込む。

##### 《米子市水道局》

- ・令和2年度決算は、人口減少や新型コロナの影響による収入減により、営業収益は前年度比46百万円減の2,760百万円となるものの、当期純損益では181百万円の黒字を見込む。
- ・令和3年度以降も、人口減少や節水機器の普及による収入減を見込む。一方で、弓浜部や境港方面への管路更新や老朽化水源施設の更新等を計画どおり継続していく予定。

#### (3) 経営上の課題解決や今後の経営改善に向けた取組方針について

##### 《県企業局》

- ・令和3年度実施予定の管路の非破壊検査結果を踏まえ、引き続き管路の適切なメンテナンスにより長寿命化を図り、長期に使用することで資金の内部留保を進める。
- ・バイオマス発電所向けの管路延伸工事完成を踏まえ、和田浜工業団地内の事業者や管路沿線の事業者に対して工業用水道の安価で安定した水質等をPRし、利用拡大を図る。
- ・施設設備の保守点検業務や修繕工事において、引き続き、外部の活力等を活用した業務の効率化を検討する。

##### 《米子市水道局》

- ・人口減少等に伴い給水収入が減少しており、将来的には料金改定も想定している。
- ・管路の更新計画は概ね目途が立ったものと認識しており、引き続き、施設設備の適正な配置等に関して、給水需要の動向も踏まえ、代替水源の確保等とも併せて検討を行う。
- ・休止中の石州府の工業用水道事業や、業務の外部委託等については、引き続き検討していく。

#### (4) 今後の予定

引き続き、双方の課題について理解を深め、課題解決に向けた取組の情報共有を図り、今後の運営・経営改善策を検討するための情報交換会を行う。（開催時期は今後調整）